

CHILD

HEALTH

AICHI

# 小児保健あいち

**第 24 号**

令和 8 年 2 月 1 日発行

**愛知県小児保健協会**



## ごあいさつ

昨年11月26日に、当協会会長を務めてこられた伊藤浩明先生がご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表しますとともに、本年度の学術研修会につきましては、代理として常任理事の杉浦よりご挨拶申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響から徐々に脱却し、各分野で新たな日常が定着してきました。一方で、国内においては労働人口の減少や社会構造の変化が進み、未来への見通しが立てにくい状況が続いています。

そのような中で、かねてより懸念されてきた少子化はさらに進行し、2024年の出生数は確定値で68万6,173人と、初めて70万人を下回りました。若い世代の生活基盤の不安定さに加え、家族の協力が得られにくい環境が広がり、子育てに伴う負担や不安は年々大きくなっています。政府による支援策が拡充されつつあるものの、家庭の構造変化や人間関係の希薄化といった根本的な課題の解決には、いまだ十分とは言えません。

一方で、小児保健・小児医療の現場には、こうした少子化時代だからこそ求められる役割があります。子ども一人ひとりが抱える問題は多様化し、家庭の孤立や育児不安、発達やこころの課題など、単なる医療だけでは解決しきれない事例が増えています。保育・教育・福祉との連携は不可欠であり、地域全体で家族を支える仕組みの再構築が急務です。しかし現場の負担は増す一方で、専門職の人材確保や経済的基盤の維持など、持続可能性そのものが問われています。

本年度の学術研修会では、愛知県看護協会様からのご推薦により、「子どものこころの問題と家族支援」をテーマに特別講演を頂きます。子どもの心理・行動の変化をいち早く察知し、家庭のストレスや孤立を和らげ、医療・保健・教育が一体となって支える取り組みは、今後の小児保健活動における中核を担うものです。

合わせて、一般演題の中にも、子どもと家族を取り巻く環境が大きく揺れる今だからこそ生まれた実践や気づきが多く含まれていることと思います。不確実性が増す時代の中でも、子どもと家族を支える活動を重ねてこられた皆様に、改めて敬意と感謝を申し上げます。

本年度の学術研修会が、新たな連携や支援の可能性を見だし、小児保健の未来をともに考える大切な機会となることを願っております。

2026年2月  
愛知県小児保健協会  
常任理事 杉浦至郎

# 目 次

令和7年度愛知県小児保健協会学術研修会プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

## 一般演題

- 1 外国籍の長期療養児とその家庭の就園における課題及び必要な支援について・・・・・・・・・・・・・2  
いけたに ち さ  
池谷 知紗氏  
(愛知県豊川保健所健康支援課地域保健グループ)
- 2 母子保健を重視した、避難行動と備えの理解を深めるための展示や体験の活動・・・・・・・・・・・・・3  
すぎうら ま き こ  
杉浦 真希子氏  
(防災活動団体 Team TSUMUGI)
- 3 朝起きられない学童への循環型睡眠教育の取り組み・・・・・・・・・・・・・4  
なかやま めいほう  
中山 明峰氏  
(めいほう睡眠めまいクリニック)

## 特別講演

- 「子どものこころの問題と家族支援」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5  
講師：愛知県医療療育総合センター中央病院  
かとう あけみ  
家族支援専門看護師 加藤 明美氏

関係機関団体紹介・・・6  
公益社団法人愛知県医師会、一般社団法人愛知県歯科医師会、愛知県小児科医会、  
一般社団法人愛知県薬剤師会、公益社団法人愛知県栄養士会、愛知県学校保健会、  
愛知県養護教育研究会、愛知県保健師会、愛知県市町村保健師協議会、  
公益社団法人愛知県看護協会助産師職能委員会、公益社団法人愛知県歯科衛生士会、  
愛知県保育士会

愛知県小児保健協会規約・・・14

令和7年度愛知県小児保健協会役員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15

## 令和7年度 愛知県小児保健協会学術研修会プログラム

日時 令和8年2月1日（日）13：00～15：30

場所 あいち小児保健医療総合センター 地下1階 大会議室

受付開始（12：30～）

**I あいさつ** (13：00～13：05)

**II 一般演題** 座長／あいち小児保健医療総合センター 保健室長 杉浦 至郎 (13：05～13：50)

1 外国籍の長期療養児とその家庭の就園における課題及び必要な支援について

池谷 知紗氏 (愛知県豊川保健所健康支援課地域保健グループ)

2 母子保健を重視した、避難行動と備えの理解を深めるための展示や体験の活動

杉浦 真希子氏 (防災活動団体 Team TSUMUGI)

3 朝起きられない学童への循環型睡眠教育の取り組み

中山 明峰氏 (めいほう睡眠めまいクリニック)

**III 特別講演** 座長／公益社団法人 愛知県看護協会 常務理事 森田 恵美子氏 (14：05～15：30)

「子どものこころの問題と家族支援」

講師：愛知県医療療育総合センター中央病院

家族支援専門看護師 加藤 明美氏

後援：愛知県 名古屋市 愛知県医師会 愛知県小児科医会 愛知県歯科医師会 愛知県薬剤師会  
日本小児保健協会

## 外国籍の長期療養児とその家庭の就園における課題及び必要な支援について

○池谷 いけたに ちさ 知紗、森 幹奈、山本 幸子、増井 恒夫（愛知県豊川保健所）

## 【要旨】

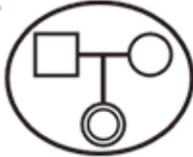
外国籍の長期療養児とその家族の希望する就園が出来るよう支援した。支援経過を振り返り、外国籍の長期療養児が住み慣れた地域で安心して生活をするための支援体制について考察した。

## 1 目的

長期療養児が希望に沿った地域生活ができるよう、支援者の関わりについて、今回は外国語話者の長期療養児の就園支援についての示唆を得る。

## 2 事例の背景・経緯

2歳 女児



疾患名	二分脊椎 脊髄脂肪腫 鎖肛 膀胱尿管逆流
医療的ケア	間欠的導尿(5~6時間毎)
身体発達	年齢相応 四肢の運動障害なし 運動制限なし
言語発達	母国語:3語文以上 日本語:単語理解と「どうぞ」「ありがとう」「もう1回」発語可能
保護者	ペルー国籍 父:日本語会話可能 母:日本語理解ほぼ不可

本児は、母国で出生時に診断後、治療を目的に1年前に来日。当初2歳の4月に入園予定だったが間欠的導尿が必要となったため就園不可となり、病院から保健所への支援依頼があり把握。保護者は、入園の可否や相談方法が分からず、日本語の不自由さからも行政や関係機関との相談に困難を感じ、強い不安を抱いていた。保護者の「母が医療的ケア(以降医ケア)をすれば入園しやすくなるのでは」という意図で、就労要件のない幼稚園への入園を目指し調整することとなった。

## 3 内容・結果

- (1) 通訳、医ケア児等コーディネーター(以下コーディネーター)と同道での複数回訪問:児や保護者との信頼関係を築きながら、本児の成長発達・医ケアの状況、保護者の思い、生活状況を丁寧に確認。
- (2) 見学、入園説明会への同行:自宅近隣幼稚園2か所の見学と、入園説明会や個別相談に同行。日本語が不自由である母だけでは得にくい園内の環境や条件を確認。入園申請書類の記入方法の相談対応。
- (3) 入園支援のための会議開催、その他入園先探索:幼稚園2か所まで相談を兼ねたケース会議を通訳をつけ開催、1か所の認可外保育施設に相談。保育園入園検討のため市関係者と本児・保護者との会議に出席。本児の医ケアの状況と保護者の養育に関する意向を、保護者・通訳同席で関係者に説明、入園を見据えた保育環境について協議。
- (4) 連携:上記訪問・会議の他、市関係者との連絡・連携により、入園申込の期限が迫る中、関係機関が効率的に正確な情報を得ることができ、次の支援を考える一助となった。

## 4 考察 課題と必要な支援

課題	必要な支援
(1) <b>地域情報の収集・理解の困難さ</b> 療養に必要なサービス・地域情報の収集・理解が難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続的かつ丁寧な関わり、情報収集・アセスメントでニーズを把握。</li> <li>長期療養児が地域で生活するための情報を提供、必要時に理解を補助。または共に探索。</li> </ul>
(2) <b>言語的障壁によるニーズ把握の困難</b> 養育、医ケアへの思い・ニーズを把握することは、翻訳ツールだけでは難しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>通訳同行の訪問で、養育に関する保護者の思いの表出や複雑な制度の理解の補助、詳細な情報を共有・伝達。</li> <li>身近な地域で暮らす通訳は、ケースに寄り添い、地域情報の提供を通じたエンパワメントが可能。</li> <li>保健活動に通訳を利用するための予算の確保。</li> <li>身近な地域に暮らす通訳の活用。</li> </ul>
(3) <b>関係機関の制度理解と情報共有の困難さ</b> 市の就園支援制度は整備が進みつつあるが連携に困難を生じた場面があった。また、コーディネーターからはケース支援での役割分担の難しさも聞かれた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別ケースにおけるタイムリーな情報共有や支援方針のすり合わせの積み重ね、難病地域対策協議会や小児慢性特定疾病関係機関等連携会議、医ケア部会などの場を活用し、地域における双方の役割理解と連携を促進。</li> </ul>
(4) <b>地域の長期療養児受け入れ経験不足</b> 保育施設では長期療養児の受け入れ経験が少ない。さらに文化・言語が異なることが障壁となる場合がある。そのためケースと関わる前から「大変」という印象を抱きやすい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問等により情報収集・アセスメントした情報を保育施設と共有。</li> <li>長期療養児の身体・医ケア状況と保育施設の環境を確認し、必要な支援について検討・相談。</li> <li>個々のニーズに沿った、地域で生活する長期療養児の就園就学のための支援と多機関の協働。</li> </ul>

## 5 まとめ

外国籍の長期療養児とその家族は、文化や言語が異なることが障壁となり、療養に必要な情報を得にくく、関係者との意思疎通が難しいことから、地域での生活に不安を抱きやすい状況にある。そのため、保健師は通訳を活用した継続訪問により、ケースとの信頼関係を築き、児と家族の思いや状況、ニーズの把握に努め、関係機関と連携したサポートをすることが重要である。今後は、支援者や関係機関が個別ケースおよび地域の課題を踏まえたニーズを共有し、支援方策を共に検討するため、日常的に課題を意識した保健活動を積み重ね、長期療養児の希望に沿った地域生活の実現に繋げたい。

## 「母子保健を重視した、避難行動と備えの理解を深めるための展示や体験の活動」

○杉浦真希子 すぎうら まきこ 磯貝明美 遠藤幸子 鳥当法子 近藤真理 川崎良江

(防災活動団体 Team TSUMUGI)

【はじめに】南海トラフ地震の発生確率は、今後 30 年間で80%程度(2025. 1 月地震調査研究推進本部)と発表され、常に大規模災害のリスクと隣り合わせの状況にある。発災すると妊産婦や乳幼児といった災害時要配慮者は、特に脆弱な立場に置かれやすい。しかしながら、要配慮者への支援の在り方、特に避難行動や避難所における支援体制は、社会的認知や具体的対応の周知が十分であるとは言い難い。妊産婦や乳幼児の災害関連死については、全体数が高齢者と比較して少ないため注目されないが、母子の健康被害は多数発生している。そのため平時から防災知識の普及と備えが不可欠である。私たちは、乳幼児がいる家庭の避難や備え、災害後の生活について理解を深めるための活動をしたので、ここに報告する。

【実践報告】私は2014年から子育て支援センターの保健師講座において、乳幼児がいる家庭向けに非常持ち出し袋や備えについて伝えてきた。度重なる災害では、乳幼児や妊産婦、女性への配慮の必要性が重視されるようになった。同じ志を持つ女性防災リーダーの仲間とチームを組み、2023年から市内10か所、市外5か所で女性・子ども目線の防災活動を行った。

以下、表1に避難行動と備えの理解を深めるための展示や体験例を示す。

母親にとって、乳幼児を抱えて逃げる際の重さや母親の負担が大きいのを踏まえ、いつ起こるか分からない発災を想定し、普段使っているママバッグを防災仕様にすることを提示した。ママバッグの中身と持ち出し備品をイラストではなく現物展示することで、全体の重さや大きさが想像でき、現実的と評価を得ることができた。地域の防災訓練では、自主防災会の方や避難所運営リーダーが参加されるため、乳幼児がいる家庭への配慮や備蓄について視野を広める機会になると考え、妊婦体験(疑似)乳児を用いた避難体験、乳児の必要な食事量の展示を行った。妊婦体験や避難体験を通して、女性は男性よりも筋肉量が少ないことや妊婦にとっての避難の困難さ、避難所生活における配慮の必要性、乳児のミルクや離乳食等の備蓄について理解してもらえた。

また、発災時に命が助かることは最も重要である。家庭の地震対策の啓発を行うための「知るバニア防災検定」では、親子が一緒に楽しみながら、家具の固定や配置、避難経路の確保など、命を守る対策を学ぶ良い機会になった。乳幼児から小学生までの成長発達に応じた非常持ち出し物品を一覧化した展示により、準備の見通しがつきやすいと好評であった。全活動を通して、当事者家族だけでなく運営者側や参加者にも災害対策や備蓄、支援について啓発できた。

表1. 避難行動と備えの理解を深めるための展示や体験例

作成した展示物	目的	展示物の活用方法	参加者の声
ママバッグ防災仕様	いつでもどこで起きても対応できるもの	現物を見て大きさ、重さがわかる	足りないものが分かった
妊婦体験	妊婦の身体の負担を知る	身に着けて日常動作をする、動く	かみさんに大感謝
(疑似)乳児と避難	乳児の重さを体感、おんぶ体験	乳児と同じ重さの人形を活用	思うように動けない
乳児の栄養	乳児の1日に必要な食事量、重さ	現物を見て大きさ、重さがわかる	こんなに用意は大変
知るバニア防災検定	家庭全体の地震対策、親子で楽しむ	親しみのある玩具で興味を引く	家の中の対策が分かった
成長別非常持ち出し袋	年齢、発達に応じた必要物品の把握	年齢・成長別に見やすく展示	見通しができた

【まとめと今後の方向性】本活動により、乳幼児のいる家庭や防災訓練の運営者と参加者は、女性の身体的特徴や乳幼児の発達段階に応じた避難準備・行動の重要性、乳幼児や妊産婦、女性に対する配慮や必要物品の備蓄、避難所の体制について理解を深めることができた。これらの活動は、防災訓練運営者から、「私らでは分からないから、このような展示はこれからもしてほしい」との声があり、次年度の防災訓練につながっている。また活動の情報が少しずつ他の地域に広まり、徐々に女性・乳幼児を含めた要配慮者の防災活動の頻度が増えてきた。発災時には“誰も取りこぼされない避難所運営”が可能となるよう、継続的な活動が必要不可欠と考える。今後は、さらに市内外へと活動範囲を広げ、啓発していきたい。

## 「朝起きられない学童への循環型睡眠教育の取り組み」

○中山明峰 なかやまめいほう（めいほう睡眠めまいクリニック）

寺西正明（独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター耳鼻咽喉科）

緒方正樹（おがたファミリークリニック）

福水道郎（東京家政大学子ども支援学部子ども支援学科）

小林充典（黒沢病院ヘルスパーククリニック歯科口腔外科）

坂田昌嗣（名古屋市立大学こころの発達医学講座）

山田敦朗（名古屋市立大学こころの発達医学講座）

岡 靖哲（愛媛大学病院睡眠医療センター）

角谷 寛（滋賀医科大学精神医学講座）

## &lt;はじめに&gt;

少子化が進行する日本において、不登校学童の数は年々増加し、現時点で30万人を超えていると報告されている。不登校と睡眠障害との関連性が指摘されており、これに対処しながら適切な介入を行うことが問題の解決に寄与すると考えられる。報告者らは2015年より名古屋市行政と協働し、本課題についての議論を重ね、市民と連携した睡眠教育の推進活動を展開してきた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行により、活動は一時停止せざるを得なかった。本研究では、新たにオンラインシステムおよびソーシャルメディアを活用した組織を構築し、さらに睡眠の重要性について国民への啓発活動を展開することにより、若年層における睡眠問題の予防と解決に貢献したいと考える。

## &lt;これまでの経過&gt;

## 第1段階: 調査

名古屋市における児童の睡眠調査結果を基に、令和6年3月に公表された文部科学省委託事業「不登校の要因分析に関する調査研究」と併せて解析を実施し、エビデンスに基づく学術的報告を作成した。調査の結果、主要な不登校の原因は睡眠障害であることが示された一方で、学校施設側がその状況を十分に把握していないことも明らかとなった。また、多くの児童に睡眠負債が存在すること、児童の情緒に電子パネルの使用時間が影響していることが判明した(Sakamoto N, et al., BMC, 2022)。

## 第2段階: 活動母体の設立と行政との連携

2025年6月に非営利団体である一般社団法人「寝る子は育つ協会」(ネルソダ)を設立し、その活動をオンライン化した。国民の睡眠リテラシー向上を目的とし、「循環型睡眠教育」の普及を掲げた計画を公表し、クラウドファンディングを実施した。終了時点(8月末)で目標額の200%以上に達し、全国から多大な関心と経済的支援を得ることができ、同年9月1日より睡眠育成士資格取得を目的とした睡眠教育を開始した。併せて、本活動は名古屋市議会の了承を得て進められ、今後は教育委員会などと連携しながら、名古屋市全学校施設で活動を展開していく予定である。

## 第3段階: 介入

循環型睡眠教育とは、ネルソダを中心に構築された教育モデルである。具体的には、第一に教育施設と連携し、教育者に対して睡眠教育を実施する。次に、教育者が子ども及び保護者に対し睡眠に関する指導を行い、その後、介入による学習や生活習慣の変化を追跡・評価する。そして、ネルソダがこれらの結果を解析し、学術報告を行うことで、国民の睡眠リテラシーの向上を目指すものである。なお、ネルソダはシビアナ睡眠疾患に関してもオンラインによる相談サービスを提供している。

## &lt;今後の展望&gt;

児童の睡眠問題には、大人の責任が関与している可能性が示唆されている。児童の睡眠問題解決には、成人の睡眠改善が不可欠であることから、国民に対する睡眠教育の推進および、教育機関と連携した学校における睡眠教育支援の強化が必要であると考える。ネルソダはやがてこの活動を文部科学省に届け、政府レベルで行うことを最終目標としている。

## 「子どものこころの問題と家族支援」

講師：愛知県医療療育総合センター中央病院

家族支援専門看護師 かとう あけみ  
加藤明美氏

子どもの精神保健上の課題はさまざまだと思いますが、今回は不登校・暴力・いじめ・自傷といった問題を扱いたいと思います。その理由は、少子化にも関わらずこうした問題が増加し深刻化している現状があるからです。文部科学省が、全国の国公私立の小・中・高等学校を対象に実施した2024年度の児童生徒の問題行動・不登校に関する調査結果を公表しました。同調査によれば、小中学校で年間30日以上欠席した不登校の児童生徒は12年連続で増え、353,970人と過去最多を更新しました。小・中・高等学校における暴力行為は19,872件（18.2%）増加し、過去最多の128,859件です。いじめ認知件数も、過去最多の769,022件です。また厚生労働省が2024年度調査で、せき止め薬や解熱鎮痛剤などの市販薬を過去1年以内に乱用目的で使った経験がある中学生は1.8%（約55人に1人）と推定されることを公表しました。

子どものこころの問題の背景には、子ども自身に起因するものと子どもを取り巻く環境に起因するものがあり、それが相乗することで問題が複雑化することを実感してきました。具体的には、発達障害やいじめ・虐待といった迫害的体験を背景にした子どもや家族の生きづらさが問題の根っこだと考えています。このような考えに至った理由は、私が家族支援専門看護師として、主に子育てに向き合うことが困難な家族の支援に携わってきたからです。

専門看護師（Certified Nurse Specialist）は日本看護協会が認定する資格です。専門看護師制度は、複雑で解決困難な看護問題を持つ個人、家族及び集団に対して水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めた専門看護師を社会に送り出すことにより、保健医療福祉の発展に貢献し併せて看護学の向上をはかることを目的としています。がん看護や精神看護といった、さまざまな分野がありますが、家族支援は家族の健康的な成長・発達を促し、家族員の疾病や障害に関連して起こる問題に家族が対処できるように、家族の意思決定やセルフケア力を高めるための支援を行う領域です。私がこの資格にたどり着いたきっかけは、虐待を受けた子どもとの出会いでした。親から心理的虐待を受けていたAは、われわれ看護師を「命の恩人だ」と言いました。少々大げさな表現だと思うかもしれませんが、子どもの体験として命を削るような思いをしていたことを物語っていたと思います。この発言を聞いた当時の私は、親を一方的に責める姿勢を持っていました。しかし、Aの家族と関わる中で、ケアを必要としているのは子どもだけではないという気づきを得ます。家族も支援を求めていることを実感していくのです。一方、私はこの経験によって、Aの家族が持っていた支援ニーズにどのように応じればよいのか戸惑うばかりで困難感を抱えました。そんなとき、家族看護学に出会うことができました。

家族看護学には代表的な理論が2つあります。家族を家族員が相互に影響しあうシステムとして捉える家族システム論と家族を成長発達する集団だと捉える家族発達理論です。これらの理論を学んだことで、家族メンバーの誰かひとりを責めても家族の問題が解決しないということや、家族は独自の方法で各発達段階を歩いていき、家族が適切に発達課題を乗り越えていくことによって家族の健康も達成されることを知り、Aの家族に対する捉え方が大きく変わったことを今でも思い出します。今回の講習会では家族看護学の視点をご紹介します。子育てに困難感を抱える家族の支援について検討していきたいと考えています。小児保健に携わる関係者の皆さんと議論できることを楽しみにしております。

## <関係機関団体紹介>

- 1 公益社団法人愛知県医師会
- 2 一般社団法人愛知県歯科医師会
- 3 愛知県小児科医会
- 4 一般社団法人愛知県薬剤師会
- 5 公益社団法人愛知県栄養士会
- 6 愛知県学校保健会
- 7 愛知県養護教育研究会
- 8 愛知県保健師会
- 9 愛知県市町村保健師協議会
- 10 公益社団法人愛知県看護協会助産師職能委員会
- 11 公益社団法人愛知県歯科衛生士会
- 12 愛知県保育士会

### 1 公益社団法人愛知県医師会

公益社団法人愛知県医師会では、学校保健部会幹事会において、学校保健領域における活動の基本方針を策定し、学校健診委員会で具体的検診項目の全県下レベルでの精度管理と有用性の検討を行っています。

また、単に健診などの保健活動を行うだけでなく、それらを取りまとめ、様々な方向から検討を行い、その成果を適切に公表する事により、学校保健の実践に役立たせることが可能と考えています。

今年度の主な事業は下記内容を予定しており、今後とも当会は、学校保健に携わる皆様方のご協力をいただきながら、子どもたちの未来を見据えた活動ができるよう取り組んでまいります。

○令和7年度の主な事業内容

- 1) 第40回学校保健健診懇談会の開催
- 2) 令和7年度学校保健シンポジウムの開催
- 3) 小児CKD（慢性腎臓病）対策講習会の開催（愛知腎臓財団と共催）
- 4) 令和7年度学校保健講習会（日本医師会主催）への参加
- 5) 第56回全国学校保健・学校医大会（神奈川県）（日本医師会主催）への参加

令和8年度には、全国学校保健・学校医大会が愛知県で開催予定ですので、是非ご支援賜りますようお願い申し上げます。

※愛知県医師会館の建て替えのため下記仮事務所へ移転しております。（令和8年12月までの予定）

【仮事務所住所】〒455-0031 名古屋市港区千鳥1丁目13-22（旧名古屋市医師会看護専門学校）

TEL：052-241-4136（代表）

FAX：052-241-4130

## 2 一般社団法人愛知県歯科医師会

愛知県歯科医師会は、池山正仁新会長の元、3,917名(令和7年9月現在)の会員を擁し、地域の歯科医療を通して県民の健康維持・増進に努めています。

当会で平成26年から提唱する「ウエルネス8020」では、0歳の乳児期から高齢者まで、全てのライフステージに応じた口腔機能の維持・管理を推進する事業へと発展させています。

「口腔機能発達不全症対応支援事業」では、歯の萌出前であっても歯科が子どもの育ちに関与することで、その後の健全な口腔機能の獲得を目指しています。また、口腔機能発達に問題が生じた場合、県下全域で「だれでも・どこでも・いつでも気軽に、口腔機能発達の困り事に相談や支援が受けられるよう、口腔機能の育成に関わる支援者の相互連携と、地域の相談支援体制の整備を促進しています。

園・学校における歯科健康診断の精度向上や歯科保健教育のための歯科医師研修、児童虐待への対応、愛知県学校歯科保健研究大会主催、歯・口の健康に関する図画ポスターコンクールなど、学校保健に係わる内容は主軸となる活動です。

若い世代からの口腔ケア推進事業では、自身のお口の健康に目をむけ、自らすすんで歯科検診を受ける習慣を啓発するために、学校法人日本教育財団HAL名古屋、愛知県の協力を得て、「官学連携プロジェクト」として歯科受診普及啓発動画制作を企画、実行するなど、若い世代に向けた定期歯科検診受診行動促進に向けたシステム作りに取り組んでいます。

また、美味しく、楽しく、健康的で安全に食べることは、生きるための根幹をなすものと捉え、食育推進事業を通して、食育に歯科が関わる重要性を発信しています。

## 3 愛知県小児科医会

1. 会員数 2025年7月27日現在 354名
2. 定例総会：2025年5月25日(日)に第67回定例総会を開き、本年度事業計画として5歳児健診の推進、大規模災害時の小児医療等を決定した。
3. 定例理事会：年6回。原則として奇数月に開催している。
4. 例会講演会：年4回。理事会開催日に開催している。
5. 臨床懇談会：年2回。1月と7月に開催している。
6. 子どもの健康を守る会：幼稚園、保育園の保護者、保育士、幼稚園の先生、医療関係者を対象に年1回開催している。
7. 会報：年2回発行
8. 委員会活動
  - 小児保健委員会(年間3回)：県内の小児健診などについて
  - 小児在宅医療委員会(年間2回)：名古屋市小児科医会の委員会と合同開催
  - 子どもの健康委員会(年間2回)：子どもの健康を守る会、こどもの健康週間
  - 研修委員会(年間3回)：例会の演題、講師決定
  - 広報委員会(年間2回)：会報を年2回発行
9. その他：昨年度から勧めている子宮頸がんワクチンのキャッチアップ接種率が大幅に増加した。引き続き推進していきます。切れ目のない健診制度(1カ月健診、5歳児健診等)の推進を図っていきます。

#### 4 一般社団法人愛知県薬剤師会

愛知県薬剤師会では平成 22 年度から、妊娠、授乳中の方からの医薬品使用等に関する相談に対して適切なアドバイスを行い、医療従事者へ適切な情報提供ができる「妊娠・授乳サポート薬剤師」を養成しており、現在愛知県外も含め約 500 名の薬剤師が活躍しております。保健所・保健センターによる「パパママ教室」等での対面による相談をとおして、妊娠、授乳中での薬剤の使用や、適正使用についての提案をさせていただいております。また、「妊娠・授乳サポート薬剤師」からも妊娠を希望される方へ、早期に葉酸の摂取を推奨する活動も行っております。さらに、幼稚園や保育園に配布される冊子「ママごはん」（年 4 回発行）に、薬の飲み方について継続して記事を掲載しています。

スポーツにおけるドーピングを防止するための専門知識を持った薬剤師である「公認スポーツファーマシスト」はアスリートおよびサポートスタッフに対して最新のドーピング防止に関する正確な情報提供や薬の正しい使用方法の指導・啓発などの活動を行っています。特に国民スポーツ大会出場選手への「アンチ・ドーピング教育の義務化」が実施されたことにより、愛知県スポーツ協会のご協力を得て、各競技団体への出張講話を行い、少年・成人種別と幅広い年代のアスリートに「クリーンスポーツに参加する権利と責任」について教育活動に取り組んでおります。また 2026 年(令和 8 年)に開催される「アジア競技大会・アジアパラ競技大会」において、アスリートへのドーピング防止活動を行うことを予定しています。

医療的ケア児の支援として、令和 3 年度に厚生労働省の補助事業として実施した「愛知県内における医療的ケア児の薬物療法に係る連携体制構築推進事業」の成果を踏まえ、小児薬物療法に係る専門性の高い薬剤師を養成するための研修会を開催しています。今後も継続的に研修会を開催することにより、小児在宅医療、医療的ケア児、小児薬物療法などについての理解を深め、小児在宅医療に積極的にかかわる薬局、薬剤師を増やしていきたいと考えています。

#### 5 公益社団法人愛知県栄養士会

愛知県栄養士会では、愛知県看護協会が取り組んでいる「多職種によるまちの保健室」に、医師会、薬剤師会、理学療法士会、歯科衛生師会とともに参画しているところですが、本年度はさまざまな本格的連携事業が行われました。そのうちの本会も参加した一つを報告いたします。

- 1 日 時 2025 年 8 月 30・31 日（土・日） 両日とも 10:00～16:00
- 2 場 所 ポートメッセなごや第 3 展示館（名古屋市港区）
- 3 イベント名 「こどもの福祉機器展～チャレンジドフェア 2025～」
- 4 主 催 愛知県のリハビリテーション三団体（理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会）
- 5 イベントの主な内容 肢体不自由児等医療的ケア児の移動用福祉機器等の展示や試用など
- 6 多職種によるまちの保健室  
看護協会、歯科衛生師会、栄養士会が共同で日常の健康ケアについての相談窓口を開設
- 7 栄養士会の相談状況
  - 従 事 者： 医療的ケア児への相談経験のある管理栄養士 各日とも 4 名
  - 相談件数： 一日目 45 件 二日目 30 件
  - 主な相談内容
    - ・胃ろう栄養におけるミキサー食の物性や適正量などへのアドバイス
    - ・「丸呑み」する子どもの適切な食形態の在り方 ・食行動（吐き出しなど）の対処方法
    - ・摂食嚥下障害児に対する酵素入りゲル化剤の調理方法など
    - ・18 歳後の食指導ができる機関についての不安など



## 8 愛知県保健師会

愛知県保健師会には、愛知県に勤務する保健師164名（令和7年5月現在）が所属し、会員の資質向上並びに会員相互の親睦を図り、こうした取組を通じて公衆衛生活動の発展に寄与することを目的としています。

会員の主な所属としては、県下の11保健所となりますが、あいち小児保健医療総合センター、福祉・児童相談センター（9ヵ所）、医療療育総合センター、精神保健福祉センター、愛知県庁内の3局7部署、市町村への交流など幅広く配置がされています。

具体的な活動では、地域保健活動の知識と技術等の継承を目的とした年2回の研修会の開催や、幅広い情報共有を目的とした保健師会ニュースを年2回発行しています。

また、県内を地域ごとに名古屋・尾張東・尾張西・三河の4つのブロックに分けた、ブロック単位の活動として、研修や情報交換の機会を設けています。

### 【令和7年度の研修会（全体）】

- 令和7年 5月17日 講演「認知症落語から学ぶ、誰もが穏やかに暮らせる地域を目指して」
- 令和7年11月 8日 講演「難病支援における保健師の専門性とチームの中での役割」  
グループワーク「講演を聴いての気づきや学びについて」

新型コロナウイルス感染症の影響で細くなってしまった地域の関係機関とのつながりの再構築、様々な災害を想定した平時からの危機管理や予防の視点を持った感染症対策の推進、地域に責任を持つ保健師としての知識・技術の伝承など、多くの課題に向き合い、学び合っています。

## 9 愛知県市町村保健師協議会

愛知県の53市町村（名古屋市を除く）の保健師1,250名の会員（令和7年4月1日現在）で構成されています。市町村間の連携協調のもと、保健師が各職務に関して必要な知識と技術を修得し、資質の向上を図ることにより、円滑な地域保健活動を行い、地域住民の健康と福祉の向上に寄与することを目的に活動しています。

市町村保健師活動は多様化しており、母子保健、成人保健、高齢者福祉等様々な分野において、医師・歯科医師・薬剤師会の先生方をはじめ、学校や企業等の職域、介護関係機関等、様々な職種の方と連携し、地域のすべての人の健康の保持増進、子育て支援、福祉の推進のため活動しております。

多様化・複雑化する健康課題の変化に合わせた保健師の活動をさらに推進するため、他市町村の保健師との交流や情報交換、有意義な研修会の企画により、保健師の人材育成に努めております。

### 1 所属別人数

総数	保健所	地域保健	児童福祉	高齢福祉	障害福祉	国保	その他
1,250	216	701	84	121	27	44	57

### 2 主な活動

- (1) 研修会の開催（年4回）
- (2) 県内・県外研修補助事業
- (3) 市町村保健師活動のすがた発行
- (4) 愛知県内関連会議への代表出席  
成人事業・生活習慣病関連/母子保健事業関連/  
アレルギー疾患関連/自殺対策関連/介護保険・介護予防  
事業関連/障がい者自立支援関連/他

R7年度研修会内容	
1	人々の元気を与える保健師のコアと すごワザを確認しよう
2	効果的なチラシ・ポスターの作成方 法
3	プレコンセプションケア（性教育）
4	市町村と企業における地域職域連携 の進め方

## 1 0 公益社団法人愛知県看護協会助産師職能委員会

公益社団法人愛知県看護協会では、35,473名（2025年7月現在）の会員を有する看護職能団体です。2025年7月に愛知県北区大曾根に新築移転を行い、助産師職能委員会も活動を継続しております。看護協会員のうち助産師は1,477名である。助産師職能委員会助産師業務の充実、助産師出向制度の推進などの活動を行っています。2025年度は、助産師業務の改善、円滑な組織運営等を中心に事業目標を達成するように進めています。

### 【助産師業務の充実】

#### 1. 「2025年度国際助産師の日」開催

テーマ：母子のための災害発生時の対応

開催日時：2025年10月18日（土） 14時～16時

対象：看護職（保健師・助産師・看護師・准看護師）

場所：愛知県看護協会

基調講演「能登半島地震を経験して～断らない分娩と継続的な対応」

シンポジウム開催

#### 2. 研修会開催

テーマ：助産師基礎教育の現状と課題 ～望ましい助産師教育を考える～

開催日時：2025年12月19日（金） 13時30分～16時00分

対象：分娩取り扱い施設の看護管理者及び教育担当者など

場所：愛知県看護協会

### 【円滑な組織運営】

#### 1. 年間11回の委員会開催、会員増加に向けた取り組み等

以上のような活動を精力的に取り組み進めています。

## 1 1 公益社団法人愛知県歯科衛生士会

子供にかかわる口腔保健啓発事業を紹介

### 「どうぶつぶくぶくフェア」案内

令和8年3月8日（日）名古屋市東山動植物園において、県民が健康で明るい生活を送っていただくための口腔の健康増進を提案することを目的に、愛知県歯科衛生士会主催、愛知県歯科技工士会共催で「どうぶつぶくぶくフェア」を開催する。

実施内容は、愛知県歯科衛生士会から 1)動物の歯クイズ（参加型） 2)ドリンクPH、砂糖の含有量について学ぶコーナ 3)キシリトール・フッ化物について学ぶコーナ（予定）また、愛知県歯科技工士の石膏で手形を作るコーナでは、子供の成長記録として毎年参加し大切に保管されている方が多く子供たちは嬉しそうに持ち帰ります。早春に目覚めた動物たちと共に来場をお待ちする。

### 「多職種によるまちの保健室」活動の輪 紹介

地域包括ケアの進展に伴い、多職種の連携のさらなる強化が求められています。

令和5年度より県看護協会の呼びかけで、県理学療法士会 県薬剤師会 県栄養士会 県歯科衛生士会の5団体で検討会議が始まり、令和6年度より従来のまちの保健室の地区活動に多団体が参加する形で開始した。令和7年度より県医師会が新たな構成員となり活動内容が広がった。従来のイベント型に加えて、新しい県看護協会会館と地域のクリニックを開催場所とした拠点型の活動を開始し、住民の身近な場所で健康教室に参加できる機会が広がった。内容についても子供の発育について新たに加わった。

## 1 2 愛知県保育士会

愛知県保育士会は、保育士の職能組織の性格を持ち各都道府県に組織されており、「子どもたちの真の幸福」を願い、保育士相互の交流と専門性の確立をめざして活動しています。本年度の愛知県保育士会の会員数は、15,269名。会議の開催や関連分野との協議を通じて情報交換等に務め、各種研修会・セミナーなどの開催により保育分野の研究を深め、会員の資質向上に努めています。

本年度事業概要は以下のとおりです。

### 1 重点事項

- 1 保育士・保育教諭としての資質向上を図るための取組み
- 2 愛知県保育士会の組織強化及び地域における保育士会活動への支援
- 3 保育士会市町村委員等の資質向上・学習の場の提供
- 4 福祉サービスの質の向上のための自己評価等の取組み
- 5 会員向け情報提供の充実

### 2 会議の開催

- (1) 委員総会      (2) 常務委員会      (3) 正副会長会議      (4) 保育関係役員合同会議

### 3 研修会の開催

- (1) 新任職員セミナー      (2) 市町村委員研究会      (3) 尾張・三河地区研修会  
(4) 名古屋地区研修会      (5) 愛知県保育研究集会      (6) 市町村委員勉強会

### 4 会員向け情報提供等の充実

- (1) 愛知県保育士会概況の発行      (2) 機関紙すかんぽの発行



すべての人の健康のために  
地域社会とつながり、**予防・医療・介護**のサービスを通じて「人」を支える

## 株式会社 八神製作所

-Human Care Company-

YAGAMI 〒460-8318 愛知県名古屋市中区千代田二丁目16番30号 TEL. 052-251-6671 (代)

[www.yagami.co.jp](http://www.yagami.co.jp)



最先端のサイエンスを駆使して、  
世界中の人々の生命を救い、  
生活を改善すること。

このパーパスの実現に向けて、  
MSDは全力で取り組んでいます。



# 愛知県小児保健協会規約

## (名称及び所在地)

第 1 条 本会は愛知県小児保健協会と称する。

第 2 条 本会は事務局を愛知県大府市森岡町七丁目 4 2 6 番地あいち小児保健医療総合センターに置く。

## (目的及び事業)

第 3 条 本会は小児保健に関する研究及び知識の普及啓発等を目的とする。

第 4 条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 小児保健に関する学術集会等の開催
- (2) 小児保健に関する調査研究
- (3) その他、本会の目的達成に必要な事業

## (構成員)

第 5 条 本会は愛知県に在住または在勤する本会の趣旨に賛同する者によって構成される。

第 6 条 賛助会員は本会の事業に賛同し、援助する者をいう。  
(賛助会員 1 口 10,000 円)

## (役員)

第 7 条 本会は次の役員を置く。

会長	1 名
理事	25 名程度
常任理事	若干名
監事	若干名

理事は小児保健に関連する団体等から推薦を受け、理事会で協議して決定する。  
会長及び監事は理事の互選で選出する。

第 8 条 会長は会務を総括する。

理事は理事会を構成し、本会の会務を執行する。常任理事は会長を補佐し、庶務・会計を担当する。

第 9 条 監事は会計の監査をする。

第 10 条 役員の任期は 1 年とする。  
ただし、再任は妨げない。

第 11 条 本会に幹事を置く。

幹事は会長の委嘱により、理事の業務を補佐する。

第 12 条 本会には顧問を置くことができる。

顧問は理事会の推薦により、会長が委嘱する。

第 13 条 本会には名誉会長を置くことができる。

名誉会長は理事会の推薦により、会長が委嘱する。

## (会計)

第 14 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までとする。

## (規約の改正)

第 15 条 本会の規約は理事会の承認を経て、変更することができる。

## 附記

平成 3 年 1 月 13 日規約制定

平成 15 年 2 月 22 日改定

平成 27 年 1 月 25 日改定

平成 28 年 2 月 14 日改定

令和 2 年 1 月 12 日改定

令和7年度愛知県小児保健協会役員名簿

(令和8年2月現在)

協会役職	所 属 ・ 職 名	氏 名
理 事	公益社団法人愛知県医師会 理事	小林 邦生
理 事	一般社団法人愛知県歯科医師会 理事	今泉 三枝
理 事	愛知県小児科医会 理事	林 芳 樹
理 事	一般社団法人愛知県薬剤師会 副会長	青木 啓一
理 事	公益社団法人愛知県栄養士会 会長	山村 浩二
理 事	愛知県学校保健会 会長	西 脇 毅
理 事	愛知県養護教育研究会 会長	三ツ矢 由香
理 事	愛知県保健師会 会長	夏目 恵子
理 事	愛知県市町村保健師協議会 尾東支部支部長	毛利 悦子
理 事	公益社団法人愛知県看護協会 常務理事	森田 恵美子
理 事	公益社団法人愛知県歯科衛生士会 常務理事	久田 せつ子
理 事	愛知県保育士会 会長	小澤 良子
理 事	愛知県小児科医会 会長	江口 秀史
理 事	名古屋市小児科医会 会長	佐野 洋史
理 事	愛知医科大学医学部衛生学講座 教授	鈴木 孝太
理 事	愛知県尾張福祉相談センター センター長	前田 清
理 事	名古屋市子ども青少年局子育て支援部子育て支援課 課長	高須 正和
理 事	名古屋市教育委員会事務局教育支援部学校保健課 学校保健課長	津田 淳一郎
理 事	名古屋市子ども青少年局保育部 保育事業担当課長	古田 美津子
理 事	愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 課長	久野 聖晴
理 事	愛知県教育委員会保健体育課 保健体育課長	祖父江達夫
監 事	元日本赤十字豊田看護大学看護学部・大学院 元特任教授	大西 文子
常任理事	あいち小児保健医療総合センター 保健センター保健室 室長	杉浦 至郎
幹 事	名古屋市子ども青少年局子育て支援部子育て支援課 課長補佐	西田 真紀
幹 事	愛知県中央児童・障害者相談センター 企画・児童指導課 課長	土井 由紀子
幹 事	愛知県保健医療局健康医務部健康対策課 技師	三輪 桃子
幹 事	愛知県教育委員会保健体育課 指導主事	横井 里枝
幹 事	愛知県西三河教育事務所指導課 指導主事	津田 稚代
幹 事	あいち小児保健医療総合センター保健センター保健室 主査	神谷 ともみ
顧 問	名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学/成長発達医学 教授	高橋 義行
顧 問	名古屋市立大学大学院 医学研究科新生児・小児医学分野 教授	齋藤 伸治
顧 問	藤田医科大学医学部小児科学講座 教授	吉川 哲史
顧 問	愛知医科大学医学部小児科学講座 教授	奥村 彰久





## 「小児保健あいち」 24号

発行 愛知県小児保健協会

〒474-8710

大府市森岡町七丁目426番地

あいち小児保健医療総合センター

保健センター保健室 内

電話 0562-43-0500 (内線4041~4043)

FAX 0562-43-0504

E-mail [hoken\\_center@mx.achmc.pref.aichi.jp](mailto:hoken_center@mx.achmc.pref.aichi.jp)